

報 告

ppc2015 第 17 回西日本国際福祉機器展に参加して

福岡県身体障害者アーチェリー協会 篠原 彩

1. はじめに

2010年、私は高所転落による腰椎骨折により手動式車椅子利用の脊髄損傷者となった。上肢に麻痺は無く車の運転が可能になったため、一人でアーチェリーの試合出場や旅行を楽しめるようになった。事前に出かける先のバリアフリー情報が分からず、現場で苦勞をした経験から、訪問した所のバリアフリー情報をブログにて公開している。

障害当事者として店舗や施設のバリアフリー化アドバイスを求められることもあり、情報を得て今後活かせればとの思いから、今回初めて参加したので報告する。

2. 第 17 回西日本国際福祉機器展の概要

開催日：2015年10月29日(木)～31日(土)

会場：西日本総合展示場 新館

来場者：初日 6,288名、2日目 6,894名、最終日 7,821名の合計 21,003名

3. 会場の様子

JR小倉駅に直結しており、動く歩道などを使って移動した。会場内外に身障トイレがあり、フードコートも利用できるので出展者・障害のある来場者にとっても便利な会場であった。車椅子の来場者も多く、通路を車椅子同士ですれ違う場面もよく見られた。興味のあるブースでは実際に機器を試したり、直接出展者と話すことができるため、より利用者に適合するものを探すことが可能であった。私も疑問点を専門家に尋ねたり、資料を頂いたりと人との距離の

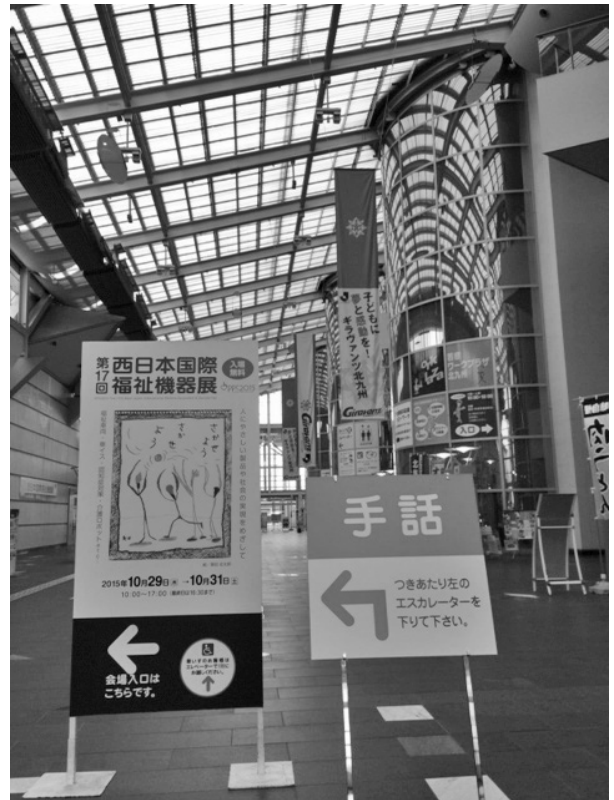


図 1

近さを大いに活用することができた。

会場には車椅子や福祉車両などの展示、介護ロボットや認知症対策の見守りシステムなど幅広い出展が見られた。TOTO や安川電機、有菌製作所などモノづくりの街・北九州を代表する地元企業も出展しており、今後相互に連携した商品開発ができるのでは、と期待を持った。

お隣の国・韓国のブースもあり、来年6月に釜山で行われる『韓国福祉・リハビリテーション・シニア展』の情報提供を行っていた。福岡から釜山は近く、国内旅行感覚で行けるので、機会があれば訪れたいと思った。韓国製のファッション杖も展示されており、そのデザインに触れることができた。今後このような海外のブースが増えていくと、国同士の情

福岡県身体障害者アーチェリー協会
バリアフリートラベラー aya の「これなに？」
<http://ameblo.jp/bf-aya/>

報交換・連携もでき、来場者も楽しめて良いのではと感じた。

会場ではイベント・セミナーが会期を通して行われ、専門家の話が聞ける貴重な機会に多くの来場者が集まっていた。事前にホームページ上でセミナーのスケジュールが確認できたため、効率よく会場を回る一助となった。セミナー会場は離れた場所に4つあり、聞きたいセミナーが同時刻に行われることもあったため、全てが聴講できなかったことが残念であった。印象に残ったのは、「人の手による介護から、福祉機器の活用へ。歩けなくても道具を知っていれば、生活や旅行を楽しむことができる」という言葉。これから高齢人口が増え、介護者が人手不足になる中、福祉機器を活用すれば寝たき

りを減らし、医療費削減が期待できる。私も介助を必要とする身として、また旅行を楽しんでいる者として、もっと周りの人に便利になる福祉機器を伝えていかなければならないと実感した。

4. おわりに

想像よりも規模が大きく、ブースで説明を聞き、時間になればセミナーへ、と忙しく動き回った。出展者から直々に詳しい使用方法や開発エピソード・想いなどを聞き、有意義な意見交換ができた。出展者も現場の意見が聞ける貴重な場として、ぜひ今後の開発や他分野とのネットワークづくりなどに活かして頂ければ幸いである。

来年度の開催を楽しみに、今回の報告を終える。